

こども安全対策分科会

1	<p>居心地の良いコミュニティづくり</p> <p>ア 自治会町内会による盆踊り、運動会などのイベントへのこどもたちの参加や、ボランティア活動への参加機会の拡大をはかります。【自治会町内会、小・中学校等】</p> <p>イ 「よこはま学援隊」等への参加者を増やすなど、こどもの安全確保のための地域ぐるみの活動をより充実させます。【自治会町内会、小・中学校等】</p> <p>ウ 「こども 110 番の家」の普及を進め、こどもの安全に関する保護者への研修会を実施します。【PTA連絡協議会】</p>
	<p>【27年度実績】</p> <p>ア こども安全対策分科会の取組をまとめたリーフレットにより、地域の取組を紹介。地域で様々なイベントが企画されており、多くのこどもたちが参加している（地域の夏祭り・地域の運動会・こどもキャンプ（青指）など）</p> <p>イ よこはま学援隊による登下校時のこどもの見守り活動を実施</p> <p>ウ 区 PTA 連絡協議会が、新入生保護者説明会や懇談会、地区懇談会などでこども 110 番の家の登録呼びかけを実施。 こども 110 番の家登録軒数：2,210 軒（参考：H26 年度 2,213 軒）</p>
	<p>【自己評価】</p> <p>ア 地域と学校、団体などの連携により、地域で行われる様々なイベントへの小中学生の参加の取組が進められ、地域とこどもたちの交流の機会が増加している。</p> <p>イ 登下校時のほか、地域イベントなどで見守り活動への参加を呼びかけ、地域全体に活動の輪を広げていく必要がある。</p> <p>ウ 高齢者の独居世帯の増加に伴い、受け入れ対応への不安等による退会が増えている。PTA の「こども 110 番の家」の登録者数を増やす必要がある。</p>
2	<p>こどもが生き生きと遊べる環境づくり</p> <p>ア こどもが安心して元気に遊びまわれるよう、地域の協力のもと、校庭、園庭、公園の芝生化を推進します。【自治会町内会、保育園、小・中学校等】</p> <p>イ 「自然観察の森」等豊かな自然を活用した栄区ならではのこどもの健康づくりに取り組みます。【自治会町内会、保育園、幼稚園、小・中学校等】</p> <p>ウ 公園、保育園、幼稚園、小・中学校等の諸施設・遊具等の管理・点検を徹底し、事故の発生を防ぎます。【保育園、幼稚園、小・中学校等】</p>

	<p>【27年度実績】</p> <p>ア・こども安全対策分科会の取組をまとめたリーフレットの中で、校庭芝生化を紹介 ・小学校2校、保育園1園の芝生化を実施</p> <p>イ 地域の様々な環境団体が行う環境学習イベントのPRチラシを6月末に発行 (8,000部)し、栄区内の小学校の児童及び教職員全員に配布</p> <p>ウ 施設の管理に起因する事故ゼロ 点検実施回数 保育園：4園 公園：4回</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 実施に向けて関係部署や学校等と調整し、計画どおりに進捗している。</p> <p>イ 栄区全体で環境学習の取組を盛り上げていくことに役立った。今後は、より幅広い活動団体と連携しイベント情報を提供してもらうなど協力を進めていく必要がある。</p> <p>ウ 概ね計画どおり進捗している。</p>
--	---

3	<p>こどもの基礎体力・運動能力向上の取組、生活習慣の改善</p> <p>ア 各小・中学校でプログラムを作成・実施します。(体力向上1校1実践運動)【小・中学校】</p> <p>イ こども自身が身を守ることでできる力をつけるため、事故防止教室の開催や危険予知向上の指導等を行います。【子育て支援団体連絡会、保育園、幼稚園、小・中学校】</p> <p>ウ 青少年指導員協議会等と連携し、子ども会ごとに危険予知トレーニングを実施します。【子ども会連絡協議会】</p> <p>エ 放課後、こどもの指導に当たるスタッフの安全教育を実施します。【はまっ子・キッズ連絡会等】</p> <p>オ こどもの健康づくりに不可欠な食生活をよりよいものにするため、食生活等改善推進員(ヘルスマイト)と学校等が連携し、食育講座等を行います。【食生活等改善推進員会、小学校等】</p>
---	---

【27年度実績】

- ア 各学校でプログラムを作成、実施
スポーツ推進委員や自治会町内会等で構成する実行委員会で中学校対校駅伝を実施（3月）
イベント参加者数：144人（参考：H26年度150人）
- イ 消防職員による保育施設職員を対象とした「防災講演会」を実施：1回（2月）
訪問運動指導を実施：保育園4園 各5回 計20回実施
- ウ ・こども会を中心にイベント開催時に合わせてKYTを実施：2回
・こども会主催の育成者向けのKYT研修会を実施：2回
- エ スタッフの要望や意見を反映したテーマで研修を実施
「災害に対して、日頃の備えと行動について学ぶ」：参加者52名
「児童、保護者とのコミュニケーションの取り方について学ぶ」：参加者70名
- オ 公田小学校で親子食育教室を実施（12月）

【自己評価・課題】

- ア 各校の特性に合わせ、着実に実施されている。また、中学校対校駅伝については、各種団体の協力のもと、地域に定着してきている。
- イ 防災講演会については、こどもの防災対策や、災害時の減災などの知識を高め、こどもの事故防止の推進につながった。また、訪問運動指導についても、こども自身が身を守ることでできる力をつけることで、けがの予防につなげている。
- ウ イベント時のKYT実施で、着実にこどもたちの受講が増加している。イラスト等を活用し、わかりやすいと好評である。
- エ 専門的な視点からの講義により、実際の活動に活かすことができる内容であった。グループワークでは、他施設スタッフとの情報交換もでき、スタッフの意識も高まった。
- オ 食生活等改善推進員（ヘルスメイト）の業務が過多になり、2校での実施が困難になってきている。

4	<p>こどもを犯罪から守るコミュニティづくり</p> <p>ア 犯罪や非行を生まない地域をつくるため、防犯パトロールや防犯キャンペーン等の啓発活動を積極的に進めます。【自治会町内会、防犯協会、消防団、保護司会、更生保護女性会、少年補導員連絡会、小・中学校等】</p> <p>イ 栄区情報配信サービスによる防犯情報メールや、「ピーガルくん子ども安全メール」の登録会員を増やします。</p> <p>ウ サイバー犯罪からこどもを守るため、学校でのサイバー教室開催等の取組を進めます。【少年補導員連絡会】</p> <p>エ 保護司等の人材確保のための取組を検討・実施します。</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア キャンペーン活動：5回 小学1年生を対象とした防犯ブザーの配布：1,040個</p> <p>イ 自治会・町内会関連研修会等において防犯情報メール登録チラシを配布 防犯情報メール登録者数：887名</p> <p>ウ 小中学校で、SNS等の危険性も含めた防犯教室を継続して実施 サイバー教室実施数：8小中学校</p> <p>エ 保護司：現人員20名</p> <p>【自己評価】</p> <p>ア 各団体で、防犯パトロールや防犯に関する啓発活動を実施している。また、新入生を対象に防犯ブザーを配布。セーフコミュニティのステッカーとチラシを同封することで保護者にも啓発を実施。</p> <p>イ 年度初めは登録推奨の機会が多いため、登録者数が増加している。</p> <p>ウ 保護者や小学生へのサイバー講習の実施を進めていく必要がある。</p> <p>エ 人材の育成・確保に向けた取組を引き続き検討する必要がある。</p>
---	--

5	<p>養育者への啓発</p> <p>0～3歳児の救急搬送件数が多いことから、乳幼児に安全な環境を整えます。</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア 啓発リーフレット等の配布数 クリアファイル：1,480部 リーフレット：400部</p> <p>イ 地域育児教室（赤ちゃん会）における保健師による事故予防講座 参加者数：375人</p> <p>ウ 事故予防に関するクリアファイルを作成し、乳幼児健診において配布</p> <p>エ 養育者の行動、意識の変化を把握するためのアンケート調査の実施</p>
---	--

【自己評価】

- ア・ウ 啓発物については、関係団体や分科会委員を通じて各イベント等で配布し、事故予防への意識向上につながっている。
- イ 地域育児教室における保健師による事故予防講座の実施により、事故予防への意識向上につながっている。
- エ 乳幼児健診においてアンケートを実施したことにより、養育者の行動、意識を把握することができた。今後、行動、意識の変化を把握する必要がある。

スポーツ・余暇安全対策分科会

1	<p>すべての区民を対象とするスポーツの推進</p> <p>区民の心身の健康づくりと相互交流を目的に、区民大会やスポーツイベント・教室等を開催するとともに、ロードレース大会やスポーツフェスティバルの参加者拡大等、スポーツのより一層の推進を図ります。また、区民のスポーツ実施状況を継続的に調査し、実施頻度を把握します。【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツくらぶ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会、子ども会連絡協議会、交通安全協会、交通安全母の会連絡会】</p>
	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 栄区体育協会主催の各区民大会や教室等の実施 (区民大会等：70回、区民教室等：17回)</p> <p>イ 栄区体育協会主催の「栄区民スポーツフェスティバル」の開催 イベント参加者数：1090名</p> <p>ウ 自治会・町内会主催の運動会、スポーツ大会の開催 イベント参加者数：約10,000名</p> <p>エ 区民アンケート等を活用し、区民のスポーツ実施状況を把握 週1回以上のスポーツ実践者：14.8%</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 栄区体育協会主催の各区民大会や教室等については、当初の計画通り、順調に実施している。</p> <p>イ スポーツフェスティバルの参加者は年々増加してきており、「だれでも参加できるスポーツ体験コーナー」をコンセプトに、多くの区民にスポーツ種目に対する新たな提案ができた。</p> <p>ウ 自治会・町内会主催の運動会、スポーツ退会については順調に実施されているが、イベント参加者数の把握が困難。</p> <p>エ 区民アンケートの集計結果をもとに、幅広い層に向けた多様なイベントを実施しているが、日常的な実践者を増やしていくことが難しい。</p>
2	<p>こども向けのスポーツ活動の実施</p> <p>こども向けのスポーツ活動を推進し、体力・運動能力向上を図ります。また青少年指導員協議会が中心となり、危険予知トレーニング等を活用した事故・けがが予防に関する啓発活動を、子ども会等と連携して新たに実施します。【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツくらぶ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会、子ども会連絡協議会、小・中学校】</p>

	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 栄区体育協会を中心に、各団体が連携して「スポーツフェスティバル」や区民まつりでの「スポーツ体験広場」を実施し、こどもが様々なスポーツを体験できる機会を創出 参加者数：1,850名</p> <p>イ けが予防の体操である「さかえっ子体操」等を通じて、こども向け事故・けが予防に関する啓発活動を実施：26回</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 3種目の体験ブースを設け、準備しながら当日に渡り、安全に十分配慮しながら実施した。</p> <p>イ 学校の昼休み等に訪問することが多いため、指導時間が短い。継続して行い、けが予防へと意識をつなげることが難しい。</p>
--	---

3	<p>高齢者向けのスポーツ活動の実施</p> <p>高齢者の健康づくりを目的に、新たに保健活動推進員や食生活等改善推進員（ヘルスマイト）等と連携した取組を実施します。また、シニアクラブや自治会町内会とスポーツ団体との連携により、健康づくりウォーキング等の高齢者が気軽に参加できるスポーツ行事を実施します。【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツクラブ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会、シニアクラブ連合会】</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア 高齢者が気軽に参加できるスポーツイベントとして、てくてくウォーク栄実行委員会主催の「てくてくウォーク栄」を開催（12月） 参加者数：360名</p> <p>イ 栄区シニアクラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会などさまざまなスポーツイベントを開催：10回</p> <p>ウ 自治会、町内会主催の、高齢者をはじめ様々な年代が参加できるスポーツ、レクリエーション等のイベントを開催：24回</p> <p>エ 「栄区民スポーツフェスティバル」や区民まつりでの「スポーツ体験広場」において、高齢者が様々なスポーツを体験できる機会を創出 参加者数：1,850名</p> <p>オ ヘルスマイトや保健活動推進員と連携し、健康づくりに関する広報啓発活動を実施：5回</p>
---	--

【自己評価・課題】

- ア 「てくてくウォーク栄」については、ウォーキング中の事故がないよう呼びかけることで、安全に実施することができた。
- イ シニアクラブのスポーツイベントで、高齢者が気軽に参加できるイベントを開催することができた。
- ウ 各団体の連携により、高齢者が楽しんでスポーツをする機会を創出した。
- エ 高齢の方でも気軽に体験していただけるように、マニュアルや実施時間等を工夫して行った。
- オ ヘルスマイトや保健活動推進員と連携し、イベント時にブース出店を行い、より効果的に健康づくりに関する情報提供を行うことができた。

4 **事故・けが予防のための意識啓発**

- ア 分科会構成団体を通じて、スポーツや野外活動中の事故・けがの事例を集め、予防策を検討します。【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツクラブ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会】
- イ 体育協会やスポーツ推進委員連絡協議会等において、予防講習会の開催や、イベント時の準備運動の際に注意喚起等を行います。【同上】
- ウ 事故・けがのデータベースを作成し、広報よこはまやホームページで情報提供を行います。

【27年度実績】

- ア 事故・けが予防のための分科会を開催：2回
- イ・さかえっ子体操指導者講習会及び普及啓発を実施：8回
 - ・事故・けが予防のための技術・知識を習得するための研修会を開催計5回、5団体から延べ241名参加
- ウ 活動をPRし、けが予防を推進するための広報紙を発行し、配布：500部

【自己評価・課題】

- ア 計画通り分科会を実施し、地域のスポーツ活動従事者による活発な意見交換を行った。また、取組指標について検討し、修正した。
- イ ・さかえっ子体操の指導者講習会及び普及啓発については予定通り実施しており、実施依頼も引き続き行っている。
・スポーツドクターの先生を講師に招き、栄区の現状を踏まえた講義が実施できた。
- ウ スポーツ余暇安全対策分科会の広報紙について、読者の多くが構成団体の方なので、それ以外の区民にも手に取ってもらえるよう、工夫が必要。

交通安全対策分科会

1	交通安全マップの作成と活用 ア 危険箇所を把握するため、小学校、保育園、シニアクラブ、安全運転管理者会等にヒアリング調査を行い、交通安全マップを作成します。（おおむね2年ごとに改訂）交通安全協会、交通安全母の会、安全運転管理者会】 イ 交通安全マップを次のように活用します。 <ul style="list-style-type: none">・地域住民が交通安全情報を把握し、自主的なこどもの見守りを行えるようにします。【学援隊、スクールゾーン対策協議会】・通学路など小学校周辺の危険箇所について安全策を検討し、対策を講じます。【小学校、スクールゾーン対策協議会】・保育園児の散歩コース等の危険箇所について、対策を講じます。【保育園】
	【27年度実績】 ア スクールゾーン対策協議会を通じて交通環境の整備要望箇所の情報を収集 交通安全マップを Web 上にて公開 マップアクセス数：5,692 件 イ 地域におけるこどもの見守りを推進するため、4月開催のスクールゾーン活動に関する説明会時に説明 説明会実施校数：14 校
	【自己評価】 ア 区内の交通事故発生状況について、過去3年分のデータを Web 上にて公開。関係機関へのヒアリング調査により、危険と思われる箇所を把握し、環境整備地点・事故発生地点の情報とともに更新した。 イ 見守り活動をはじめとしたスクールゾーン活動にて活用した。

2	<p>啓発活動の実施</p> <p>ア 駅頭などで不特定多数の区民を対象に交通安全キャンペーンを実施します。 【交通安全協会・交通安全母の会】</p> <p>イ こどもが安全な歩き方や自転車の乗り方を身に付けられるよう、衝突・巻き込み・死角等の疑似体験を交えた「はまっこ交通安全教室」を小学校で開催します。 【交通安全協会】</p> <p>ウ 自転車通行マナーの向上をはかり、こどもには自転車ヘルメットの着用を促します。 【交通安全協会】</p> <p>エ 見守り活動の安全誘導講習や保護者向けのチャイルドシート講習会等を開催します。 【交通安全協会、交通安全母の会】</p> <p>オ 高齢者を対象に、乱横断や斜め横断の危険性などを学ぶ教室を開催します。また重点地区を設定し、戸別訪問や施設訪問による意識啓発を行います。 【シルバーリーダー連絡協議会】</p>
	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 交通安全対策協議会構成団体により、各季の交通安全運動を実施</p> <p>イ 交通安全協会やPTA 校外委員を中心に、区内市立小学校に「はまっこ交通安全教室」を実施：14校</p> <p>ウ 区内市立小学校児童及び3歳児検診対象保護者あてヘルメット着用啓発チラシを配布するとともに、交通安全啓発キャンペーン時にも配布：約8,500部</p> <p>エ 交通安全教室や交通安全母の会と協力し、見守り活動安全誘導講習、母親教室にてチャイルドシート講習等を開催 開催数：12回</p> <p>オ 施設等において高齢者向け交通安全教室を開催：33回</p>
	<p>【自己評価】</p> <p>ア 各季（期間）の交通安全運動や地域での交通安全フェスティバルを通して、交通安全に対する啓発活動を展開した。未就学児の自転車乗車時のヘルメット着用及び自転車マナーアップの啓発は、重点的に実施した。</p> <p>イ 対象別に教室を開催することで、より有効な交通安全についての啓発をすることができた。安全教室で学んだ知識等の実践・継続が必要。</p> <p>ウ 市立保育園児保護者あてにも、ヘルメット着用啓発チラシを配布予定。</p> <p>エ 講習で学んだ知識等の実践・継続。</p> <p>オ 対象別に教室を開催することで、より有効な交通安全について啓発することができた。教室で学んだ知識等の実践・継続が必要。</p>

3	<p>安全な交通環境の整備</p> <p>ア 地域による、自主的なこどもの見守りや高齢者への声かけを行えるようにします。【学援隊、スクールゾーン対策協議会、自治会町内会】</p> <p>イ 事故多発地点や新たに把握した危険箇所において、路側帯のカラー化や道路改築、両側に歩道を設けた都市計画道路等、区民意見も取り入れながら、より良い道路環境の整備を推進します。</p> <p>ウ 道路交通の規制標識、指示標識の補修・整備を行います。</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア 自治会町内会、スクールゾーン対策協議会、学援隊などを中心として、地域による見守り活動を実施：14校（全校）</p> <p>イ・ウ スクールゾーン対策協議会を14校（全校）で実施。地域と道路・交通管理者が連携し、路面のカラー化など、道路環境整備を推進 道路環境整備箇所数：62か所</p> <p>【自己評価】</p> <p>ア 地域と連携した見守りができている。交通環境整備が困難な箇所については、地域による見守り活動の継続が必要。</p> <p>イ・ウ 交通環境整備が困難な箇所については、引き続き地域による見守り活動が必要。</p>
---	--

児童虐待予防対策分科会

1	<p>地域で子育てを応援する風土づくり</p> <p>栄区全体での子育て支援を推進するため、こんにちは赤ちゃん訪問等既存事業のほか、子育て講演会・区民まつり等の機会にパンフレットやオレンジリボンの配布をし、広く啓発活動を行います。これらの活動全体を通し、地域で子育てを見守る人を増やします。</p> <p>【民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会等】</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア さかえっ子の笑顔ひろげ隊事業の実施 分科会委員で、地域で行われている取組の現状把握、地域での見守りについて周知方法を検討</p> <p>イ 父子手帳の配付 母子健康手帳交付時に希望者へ配付：1,233冊</p> <p>ウ こんにちは赤ちゃん訪問の実施：88.0%</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 地域に出向き情報収集し、地区に合う周知方法を検討する必要がある。地域福祉保健計画の活用についても検討。</p> <p>イ 今後、父子手帳がどのように使われているか等、把握を行っていく必要がある。</p> <p>ウ 計画通りに実施できている。</p>
2	<p>子育てを支援する人材の育成</p> <p>区内の希望者を対象に、具体的な子育て支援に関する講座等を行います。また既に子育て支援を行っている方々への情報提供や相談に応じるとともに、ネットワーク化を図ります。</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア さかえっ子の笑顔ひろげ隊事業の実施 身近な地域に出向いて、さかえっ子の笑顔ひろげ隊の活動周知を実施。 啓発活動対象人数：1,346人 啓発回数：9回</p> <p>イ 今後親になる次世代の児童生徒へ、赤ちゃんや育児のイメージを作り、将来的に育児不安の軽減につながるようなきっかけづくりを行うためのふれあい体験を実施。 また、次世代交流ステーションの利用者（学齢期の児童生徒と乳幼児の親子）同士の交流を実施。</p> <p>ウ 子育て支援団体連絡会での研修会、情報交換等に参加：1回</p>

	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア・イ 各地域で子育て支援や多世代交流等の取組が行われているため、状況把握をしていく必要がある。その機会に地域の見守りの必要性をさらに周知できる。また、次世代交流ステーションの利用者（学齢期の児童生徒と乳幼児の親子）同士の交流が行われることで、乳幼児のイメージができる。</p> <p>ウ 事務局にて各団体のニーズを調査している。各団体の連絡会に参加する目的や意識にばらつきがある。</p>
--	--

3	<p>情報発信の仕組みづくり</p> <p>ア 地域子育て支援拠点「にこりんく」のホームページ等を活用し、協働で子育てに関する情報発信の仕組みを作ります。【地域子育て支援拠点】</p> <p>イ 広報よこはまやホームページを活用し、ニーズに応じた相談窓口の紹介や子育て役立つ様々な情報を発信します。</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア・地域子育て支援拠点、地域ケアプラザ、区の共催による「マル得！わくわく子育て講座」を地区ごとに実施：8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親学級、両親教室、赤ちゃん会等での SBS 防止の周知 <p>イ こんにちは赤ちゃん訪問時や転入者に医療機関紹介冊子を配付：804冊</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア・にこりんくの取組だけでなく、栄区内の子育て情報を HP で情報提供できるよう検討が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親学級、両親教室、赤ちゃん会等での SBS 防止の周知は予定どおり実施。 <p>イ こんにちは赤ちゃん訪問時の医療機関紹介冊子配付については予定どおり実施。</p>
---	---

4	<p>育児不安等に関する相談窓口の周知</p> <p>養育者や子ども自身、また周囲が危機感を持ったときに、速やかに何でも相談できるような窓口を周知します。特に 24 時間対応の「よこはま子ども虐待ホットライン」が区民に認知されるよう、PRを行います。【地域子育て支援拠点、民生委員児童委員協議会、地域ケアプラザ等】</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア・区内小中学校新入生、保育園幼稚園への子ども・家庭支援相談の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭の他、地域の支援者への周知 <p>イ 子育て応援講座、児童虐待防止連絡会等で、よこはま子どもホットラインについて周知</p>
---	--

	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 今後地域の支援者への周知をどのように行うか、検討が必要。また、こども自身が相談可能であることが分かるよう、チラシの工夫を予定。</p> <p>イ 児童虐待防止連絡会を地区ごとに開催。より身近な地域の方へ周知が可能となった。</p>
--	--

5	<p>児童虐待の早期発見・対応</p> <p>地域の見守り体制の強化を目的に「児童虐待防止連絡会」を開催します。またハイリスク対応のため、専門機関・関係機関が連携して情報共有し、区内関係課へ啓発をし、ささいな兆候も見逃さず、児童虐待の早期発見・対応に取り組みます。【児童相談所、学校、民生委員児童委員協議会、医療機関等】</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア 養育支援が必要な対象者を早期に把握し、支援を行うために、母子訪問、EPDS（エジンバラ式産後うつ指標）の使用、乳幼児健診等を実施。</p> <p>イ・関係機関の連携による対応（個別ケース検討会議）を実施：30回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待防止連絡会の実施：2回 <p>ウ 区における虐待対応調整チームでの訪問や面接、電話等による相談や関係機関との連絡調整、カンファレンス等を随時実施。</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア ハイリスクケースの早期発見、対応ができています。</p> <p>イ 関係機関の連携によって、迅速な情報共有や役割分担による関わりができています。</p> <p>ウ 学齢期のこどもについて、学校と連携した対応が進んでいる。</p>
---	--

6	<p>子育て支援環境の充実</p> <p>保育施設の整備を推進するとともに、乳幼児一時預かりや家庭的保育の実施等、保育資源の有効活用により保育サービスの拡充をはかり、子育て支援環境を充実させます。</p> <p>【27年度実績】</p> <p>ア 保育施設の新規整備（笠間地区）について、28年4月の開所に向け支援</p> <p>イ 既存の保育資源の活用について、小規模保育事業のほか、家庭的保育事業の連携施設の設定を調整</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 29年4月開所予定の保育施設のほか、未利用の物件情報の収集・調査を進め、ニーズの高いエリアについて対応方策を検討していく。</p> <p>イ 受け入れ枠の設定にかかる保育施設・幼稚園との調整を行った。</p>
---	---

高齢者安全対策分科会

1	高齢者の元気づくり
	介護予防教室や講演会をきっかけに、高齢者自身が自主的に介護予防活動を行うことができるよう、身近な地域の「元気づくりステーション」立ち上げを支援します。【地域ケアプラザ】
	【27年度実績】 地域の自主的な取組により2箇所の元気づくりステーションが立ち上がり、現在自主活動ができるように継続的に支援中 【自己評価・課題】 活動状況は良好。順調に支援が行えている。今後については、地域のニーズに沿って増やす方向性で考えている。
2	栄区の特徴に合わせた体力向上・脳力向上プログラムの開発と普及
	地域の特性や高齢者のニーズを踏まえ、より効果的な介護予防プログラムを開発し、地域への普及を図ります。また、プログラムの効果を継続的に検証します。
	【27年度実績】 平成28年3月に活動報告会を開催し、活動の継続支援を行っている。 【自己評価・課題】 予定通り活動報告会を開催し、支援することができている。
3	高齢者を支える地域のネットワークの形成
	ア 認知症サポーター養成講座等により、認知症に対する区民の理解を深めます。【地域ケアプラザ】 イ 配食サービスやサロン、家事援助等のインフォーマルサービス提供者の運営や立ち上げを支援します。【地域ケアプラザ】
	【27年度実績】 ア キャラバンメイト連絡会を開催し、課題を共有しつつ、キャラバンメイト同士が顔の見える関係づくりを行った。また、認知症サポーターを継続的に増やしていくことで、認知症に対する区民の理解をさらに深めた。 イ 社会福祉協議会とともに見守り活動を行っている団体等の情報を共有し、事例集を作成した。 【自己評価・課題】 ア キャラバンメイトの認知度の向上とキャラバンメイトが活動しやすい環境の整備が課題。 イ 良好な連携が行えている。

4	<p data-bbox="272 280 821 315">地域の力を活かした見守り活動の推進</p> <p data-bbox="272 331 1369 412">ア 虐待を含む、支援の必要な高齢者を早期に発見するため、地域の見守り活動の担い手を育成します。【民生委員児童委員協議会、NPO等】</p> <p data-bbox="272 427 1230 463">イ 高齢者を見守り活動を区内全域に広げます。【民生委員児童委員協議会】</p> <p data-bbox="272 479 467 515">【27年度実績】</p> <p data-bbox="272 530 1369 936">ア・見守り活動をテーマとした講演会を実施：1回</p> <ul data-bbox="309 573 1369 842" style="list-style-type: none"> ・民生委員、地域の活動を推進するため、孤立予防を目的とした「高齢者見守りのポイント」を配布 ・高齢者を見守り活動に対する意識の向上が見られ、各地域で見守り活動が増加している ・関係機関との連携強化のため、徘徊高齢者SOSネットワーク及び高齢者虐待防止連絡会を開催 <p data-bbox="272 862 1369 936">イ 「高齢者見守りのポイント」を民生委員・児童委員に配布。古語も引き続き配布し、必要に応じ使い方講座を実施</p> <p data-bbox="272 952 515 987">【自己評価・課題】</p> <p data-bbox="272 1003 1369 1234">ア・講演会実施後、地域からの要請に応じ、出前講座等を実施。</p> <ul data-bbox="309 1050 1369 1227" style="list-style-type: none"> ・見守り活動団体の把握が十分に行えていない。 ・地域により居住者の高齢化率が異なり、担い手が不足している地域の場合は十分な見守りが行えていない可能性がある。 ・関係機関と顔の見える関係を築くことにより、より早期の対応が可能となる。 <p data-bbox="272 1245 986 1281">イ 講演会や出前講座を通し、地域に啓発を行っている。</p>
5	<p data-bbox="272 1335 853 1370">関係機関との連携強化と相談支援の充実</p> <p data-bbox="272 1386 1369 1467">ア 認知症高齢者とその家族を支援するため、徘徊高齢者SOSネットワークの充実を図ります。【地域ケアプラザ、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会等】</p> <p data-bbox="272 1482 1369 1563">イ 認知症理解の促進とサービス充実のための地域ネットワークを新たに作り直します。【地域ケアプラザ】</p> <p data-bbox="272 1579 1369 1659">ウ 虐待を含む要援護高齢者を支援するため、実務者連絡会の開催を充実させます。【地域ケアプラザ、介護保険事業者、医療機関等】</p>

	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 徘徊高齢者 SOS ネットワークにおける啓発や地域包括支援センターとの連携等により登録者数は増加している 登録者数：93人</p> <p>イ 関係機関との定期的なカンファレンスを実施。ケアプラザ主体で、若年認知症についての研修を実施</p> <p>ウ 包括レベルの地域ケア会議を積極的に推進。区レベルについては段階的に実施している 地域ケア会議の開催：6回</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 徘徊高齢者 SOS ネットワークの更なる拡大が求められる。</p> <p>イ ケアプラザが主体となり、介護者のつどいや研修を実施したことで、地域に根ざした認知症の理解の効果が得られた。</p> <p>ウ 個別ケースの会議が中心となっており、区の課題抽出と解決に向けた取組が行えるよう努めている。</p>
--	---

6	<p>再認証に向けた重点化の取組</p> <p>高齢者の不慮の事故による死亡・重篤の割合が高い「浴槽内での溺死・溺水事故」を減らします。【ヒートショック対策プロジェクト】</p> <p>【27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートショック対策プロジェクトの開催 ・ヒートショック対策講演会の開催 参加者数：200人 ・シニアクラブや高齢者サロン等での出前講座の実施 ・区民まつりでの啓発活動 <p>【自己評価・課題】</p> <p>講演会や区民まつり等での啓発に加え、プロジェクトメンバーによる地域レベルでの啓発が活発に行われており、認知度や対策も広がりを見せている。一方で、直接事故の予防につながっているかの評価が困難である。</p>
---	--

災害安全対策分科会

【地震】

1	地域防災の担い手の確保・育成
<p>あらゆる災害に対して、地域で助け合う体制を強化するため、防災の担い手の確保・育成を推進します。</p> <p>ア 震災時に中心となって活動する消防団員を各種イベント・キャンペーンを利用した広報等により増員を図ります。また、減災を目指した地域活動の支援を担っていただきます。【消防団】</p> <p>イ 将来の担い手として、小学生に対する防災教室を開催します。</p> <p>ウ 中学生・高校生を対象に、救命講習を実施し、地域防災拠点における訓練への参加を促します。</p> <p>エ 震災時に地域防災拠点に備えている防災資機材取扱を身につけた地域住民を増員します。【自治会町内会、地域防災拠点、小・中学校、企業、消防団】</p>	
<p>【27年度実績】</p> <p>ア 栄区在住者のみならず、栄区在勤者も対象に入団促進活動実施 消防団員数：280人 (参考：24年度 293人、25年度 286人、26年度 287人)</p> <p>イ 防災教室の実施：12回（全校）</p> <p>ウ 救命講習の実施校：14校（全校）</p> <p>エ 地域防災拠点運営委員会連絡協議会及び各運営委員会で講習の案内を実施 防災ライセンスリーダー数：594人 (参考) 24年度 239人、25年度 265人、26年度 307人</p>	
<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 定年制があるため、入団者数より退団者数が多く、全体として団員数が微減している。</p> <p>イ・ウ 毎年実施することにより、確実に育成数が増えている。</p> <p>エ 27年度から栄区内での講習が隔年開催となったため、区外での受講を推奨していく必要がある。</p>	

2	ボランティア体制の整備
	栄区が被災した場合に備え、地域防災拠点と他都市からのボランティアを受け入れるボランティアセンターとの連携強化を図ります。【自治会町内会、地域防災拠点、小・中学校、企業、消防団、社会福祉協議会、災害ボランティアネットワーク】
	【27年度実績】 ボランティアセンター設置場所である栄図書館での訓練を検討
	【自己評価・課題】 地域防災拠点や地域との連携

3	地域防災力の強化
	ア 学校や企業、福祉施設など、多様な機関と連携を図った防災訓練の実施や、拠点訓練だけでなく、個別に実施している防災訓練を把握・連携することにより、訓練参加者数を増やします。【自治会町内会、地域防災拠点、小・中学校、企業、福祉施設、消防団等】
	イ 震災時の地域防災拠点初期対応を円滑に行うため、防災訓練において拠点の開設・運営や情報受伝達を重点化し、訓練内容の充実を図ります。【同上】
	【27年度実績】 ア 地域防災拠点の訓練だけでなく、企業や自治会町内会単位での防災訓練についても推進 防災訓練参加者数：約 43,700 人 イ 地域防災拠点運営委員会連絡協議会で各拠点の訓練内容などについて共有 開設訓練実施拠点数：20 拠点
	【自己評価・課題】 ア 防災訓練への参加意識が広まっている。 イ ペットの防災訓練や女性の視点での避難所運営など、新たな取組を行う拠点が増えてきている。

4	防災広報の充実
	ア 防災に関する正しい情報を区民に周知するため、リーフレット等の作成・配布や出前講座等を実施します。 イ ①家具類の安全な配置や転倒・落下防止対策、②民間建築物の耐震診断や耐震改修工事支援、③液状化について、イベントやキャンペーン等様々な機会を活用して広報を行います。

	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 高齢者に対して、自助について備えを行っていただくためのマグネットシートをケアプラザなどで配布 地区別意見交換会を実施：4回 出前講座：10回</p> <p>イ 区役所窓口や出前講座実施時におけるチラシの配布を実施 家具転倒防止器具設置率：35.9%（H27年度栄区民意識調査） （参考：H26年度34.1%）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 様々な場で配布ができています。</p> <p>イ 対象となる条件が比較的厳しく、興味を持って補助対象にならないことが多い。</p>

5	<p>防災情報の普及</p> <p>ア 携帯端末を活用し、防災に関連する緊急情報をリアルタイムに伝え、減災行動につなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話等に配信される、「防災情報Eメール」の区民登録者数を増やします。 ・災害緊急情報等をお伝えする「栄区ツイッター」や、横浜市ホームページ上の「横浜市防災情報」の利用を促進します。 <p>イ 災害時の迅速な避難や被害の低減を図るため、様々な被害を想定したマップの活用を促します。（地震マップ、液状化マップ、洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ等）</p>
	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 警報発表時等、リアルタイムに情報を発信 防災情報Eメール登録者数：34,800人</p> <p>イ 栄区防災マップの地図面を更新し、増刷を実施 防災マップ配布数：約2,000部</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 大雨時等における注意喚起に効果を発揮している。</p> <p>イ 避難場所の種類や場所について、認知度向上に役立っている。</p>

6	<p>災害時要援護者への避難支援取組の充実</p> <p>地域における要援護者の把握と避難訓練の実施など、災害時に要援護者が安全に避難できる体制づくりを行います。【自治会町内会】</p>
---	---

	<p>【27年度実績】</p> <p>個々の自治会・町内会において、安否確認訓練等が随時計画・実施されており、各種事業を通じた顔の見える関係づくりも進められている。また、取組の充実に向け、区による出前講座等（名簿提供に関する手続案内を含む）も随時実施</p> <p>説明会開催数：3回</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>相談等があった自治会・町内会に対しては、取組状況に合わせた対応ができているが、今後、事例紹介等を活用して、広く取組の必要性を啓発していく必要がある。</p>

7	再認証に向けた重点化の取組
	震災に備えた身近な避難所づくりを推進します。【自治会町内会】
	<p>【27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選定施設の耐震強化のための補助事業を実施 ・未選定自治会町内会に対する個別支援を実施 ・地域防災拠点訓練との連携を実施
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>自治会町内会単位の防災意識が向上し、防災訓練実施数が増えている。</p>

【水害・火災】

1	水害対策訓練の実施
	<p>ア 地域、区役所、防災関係機関とが連携し、土のう積み上げ・救助・ボート展張などを行う水害対策訓練を実施し、災害に対する防災体制の確立と、風災害の防御・被害の軽減を図ります。【水害対策連絡協議会、自治会町内会、消防団】</p> <p>イ 集中豪雨などにより発生する浸水や土砂災害等を想定したハザードマップを作成し、公表します。</p> <p>ウ 急激な河川の増水対策として、小学生を対象に着衣水泳教室を実施し、水難事故を防止します。【小学校】</p>
	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 水害対策訓練の開催 参加者数：約200人</p> <p>イ ハザードマップの全戸配布の実施 配布枚数：約54,000部</p> <p>ウ 小学生に対する河川増水時の危険についての広報・教育の実施</p>

	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 避難所の早期開設と円滑な避難者の受け入れ等、実践的な訓練が実施できている。</p> <p>イ 土砂災害に対する関心が高まっている。</p> <p>ウ 大雨時に河川に近づかないなどの広報が確実に行われている。</p>
--	--

2	<p>広報の拡充</p> <p>住宅火災による死者数を減少させるため、住宅用火災警報器設置の普及を図るよう、各種イベント・キャンペーンを利用し、年間を通して広報します。また、火災救急状況や防災情報等を区連会や広報よこはまを通して広報し、区民に対する啓発を強化します。</p>
	<p>【27年度実績】</p> <p>駅頭広報をはじめ、各種イベント時（防災訓練、区民まつり等）に広報を実施</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>継続的に取り組むことができている。</p>

3	<p>再認証に向けた重点化の取組</p> <p>水害への備えを強化します。</p>
	<p>【27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災講演会の実施 ・ 防災情報Eメールの登録促進 ・ 土砂災害ハザードマップの配布 ・ 広報の充実（広報よこはま等）
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>地域と合同の水害対策訓練を実施したことにより、実災害時に迅速な避難所解説につながることを確認できた。今後、合同訓練未実施の地区との訓練を行う必要がある。</p>

自殺予防対策分科会

1	<p>啓発活動の展開</p> <p>ア リーフレットや啓発グッズを作成して、区民まつりや自殺対策強化月間等において配布し、自殺予防対策に関する区民の理解を深めます。【民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会等】</p> <p>イ 区民が関心を持ちやすいメンタルヘルスをテーマとした講演会を開催し、自殺予防への関心を高めます。</p> <p>ウ 他事業との連携による周知を行います。</p>
	<p>【27年度実績】</p> <p>ア 9月：駅前広場、図書館、地域ケアプラザ等での啓発 10月：ウォーキング（健康づくりに関する事業）での啓発 11月：障害理解に関するイベント、区民まつりでの啓発</p> <p>イ 「こどものサインに気づこう」～思春期のメンタルヘルスとその対応～</p> <p>ウ ここからライフスタイル事業での周知</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 配布用啓発グッズの内容検討（より手に取ってもらえるもの）や配布キャンペーン実施の場所・開催時間等の検討 よりターゲットにすべき年齢層に働きかけられる時間・場所を検討し、効果的な内容とする必要がある。</p> <p>イ 自殺者の多い20～40代が関心を持てる子育てをテーマに設定。参加者アンケートからはメンタルヘルスや自殺対策に興味を持てたと回答した人が96%、一定の効果があつたと言える。今後、テーマや情報発信の方法などを検討し、幅広く区民に周知できるよう検討していく。</p> <p>ウ 周知したい年齢層にターゲットを絞れる講座を検討し、依頼を行う。</p>
2	<p>担い手の育成</p> <p>ア 区内在住・在勤のすべての人がさかえ・ハートフルサポーターになることを目指して、基礎研修及びスキルアップ研修を実施します。</p> <p>イ 医療関係者、理美容師、教育・福祉関係者等気づきと見守りが特に期待される職種の従事者や、警察官・消防士等、未遂者・自損行為に対応する機会の多い職種向けの研修を重点的に展開します。</p>

	<p>【27年度実績】</p> <p>ア・区転入職員向けハートフルサポーター養成基礎研修実施 参加者：53名</p> <p>・栄警察署警察職員向けハートフルサポーター養成基礎研修実施 参加者：107名</p> <p>イ 専門従事者研修実施 参加者：13名</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア ハートフルサポーターの実数を増やすことができている。また、区転入職員向けハートフルサポーター養成基礎研修については、回答率の向上やメンタルヘルスへの関心が数値として向上している。課題としては、ハートフルサポーター基礎研修受講者のスキルアップ方法、対象者の拡大と、自殺率の高い20～40代の区民に対する啓発の方法が挙げられる。</p> <p>イ 医療関係者、理美容師、教育・福祉関係者等気づきと見守りが特に期待される職種の従事者や、警察官・消防士等、未遂者・自損行為に対応する機会の多い職種向けの研修の重点的な展開のため、スキルアップ研修の開催及び、福祉・介護事業所をターゲットとした研修を開催します。</p>

3	<p>研修及び啓発活動の効果測定による改善</p> <p>研修や啓発活動において、区民や保健・福祉専門職等の自殺予防対策に関する知識の習得、行動変容を測定し、研修プログラムや啓発活動等の改善に反映させます。</p> <p>【27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルサポーター基礎研修については、前年度から依頼していた講師に継続依頼し、昨年度の効果測定を踏まえ、内容を調整 ・警察職員向け研修については、内閣府作成のDVDを用いて、対応場面の事例を提示 <p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修については効果測定の結果率の変化（研修前79.3%→後93.6%）が見られている。 ・ハートフルサポーターの拡大とスキルアップに向け、より効果的な研修を実施できるよう内容について今後も検討を行う。
---	--

4	相談窓口の周知
	悩みを抱えている人やその周囲の人向けに、身近な地域の相談窓口や電話相談について、積極的な広報活動を行います。
	【27年度実績】 周知カードの設置場所の検討を実施。区役所窓口の他、栄区生活支援センター、大船のインターネットカフェに依頼 相談窓口一覧リーフレットの配布：1,000部
	【自己評価・課題】 具体的な効果については今後要検討。ハイリスク者の利用頻度の高い施設等を検討する。

5	メンタルヘルス対策従事者によるネットワーク学習会の実施
	行政、企業、学校等におけるメンタルヘルス対策の関係者や専門職によるネットワークを構築し、事例検討や有用情報の共有、学習会等を実施します。【企業、学校、医療機関、福祉施設等】
	【27年度実績】 メンタルヘルス支援ネットワーク開催：2回35人参加
	【自己評価・課題】 事例検討を通じて、参加者それぞれが他の関係機関の担当者と顔の見える関係となることができ、ネットワークの構築につながり、ハイリスク者への対応力向上につながっている。

6	ハイリスク者対策の実施
	ア 医療機関や相談窓口において、自殺に傾いている人や未遂者等ハイリスク者に対して早期発見・早期対応を適切に行うとともに、関係機関相互に連携してハイリスク者のケアや支援に取り組む環境整備を行います。【医療機関、生活支援センター、地域ケアプラザ等】 イ ハイリスク者の実態を明らかにする ウ 相談窓口の充実・自死遺族支援
	【27年度実績】 ア・メンタルヘルス支援ネットワーク開催：2回35人参加 ・専門従事者研修開催：1回13人参加 イ 警察、消防データを取得し、集計・分析を実施 ウ・4月～6月末の相談実績：5件 ・周知用カードについては、区役所窓口の他、栄区生活支援センター、大船のインターネットカフェにも設置を依頼

【自己評価・課題】

- ア 参加者意見として、参加者自身のストレス軽減になった、対応方法について事例検討を通じ参考になった等あった。
- イ 数が少ないため、分析には至らない場合も、実としての把握は継続して行っていく。
- ウ 実施頻度と時間帯により、相談件数につながらない状況が考えられる。また、周知用カードの設置場所の検討や、ホットラインの実施方法について今後検討していく。

防犯対策分科会

1	振り込め詐欺の防止
	振り込め詐欺犯罪の認知件数及び被害額の減少につなげます。
	【27年度実績】 ア 街頭キャンペーンにおいて啓発を実施したほか、広報よこはまにて啓発記事を掲載 キャンペーン開催回数：5回 イ 年金支給日における金融機関での声掛けを実施：6回 ウ 各関係団体が講座・講演を実施：30回
	【自己評価・課題】 ア 街頭キャンペーン等以外にも、広報・ケーブルテレビ・HPなどのツールも使用した啓発活動を実施。 イ 実施範囲の拡大について検討。 ウ 団体間でも有効な働きかけをするなど、取組に広がりをもたせる。
2	つながりを感じるコミュニティの形成
	ア 多くの区民が犯罪の発生に敏感になり、自己防衛策を講じます。 イ 地域や各種団体が連携して、防犯パトロール等を実施し、地域全体で防犯対策を行います。
	【27年度実績】 ア 犯罪発生情報の配信及び認知件数の多い犯罪への注意喚起を実施：210回 イ・各地域・団体が独自に防犯パトロールを実施 ・犯罪認知件数の内容分析と区民アンケートの結果をもとに、課題を情報共有
	【自己評価・課題】 ア 参加者・実施回数の把握を実施 イ 犯罪抑止につながる具体的な活動の検討

3	<p>安心感のあるまちづくり</p>
	<p>防犯上や通行上の必要箇所に、防犯灯を設置します。</p>
	<p>【27年度実績】 地域からの要望に基づき、防犯灯を設置：44灯</p>
	<p>【自己評価・課題】 鋼管ポール（独立柱型）防犯灯のLED化への検討。</p>